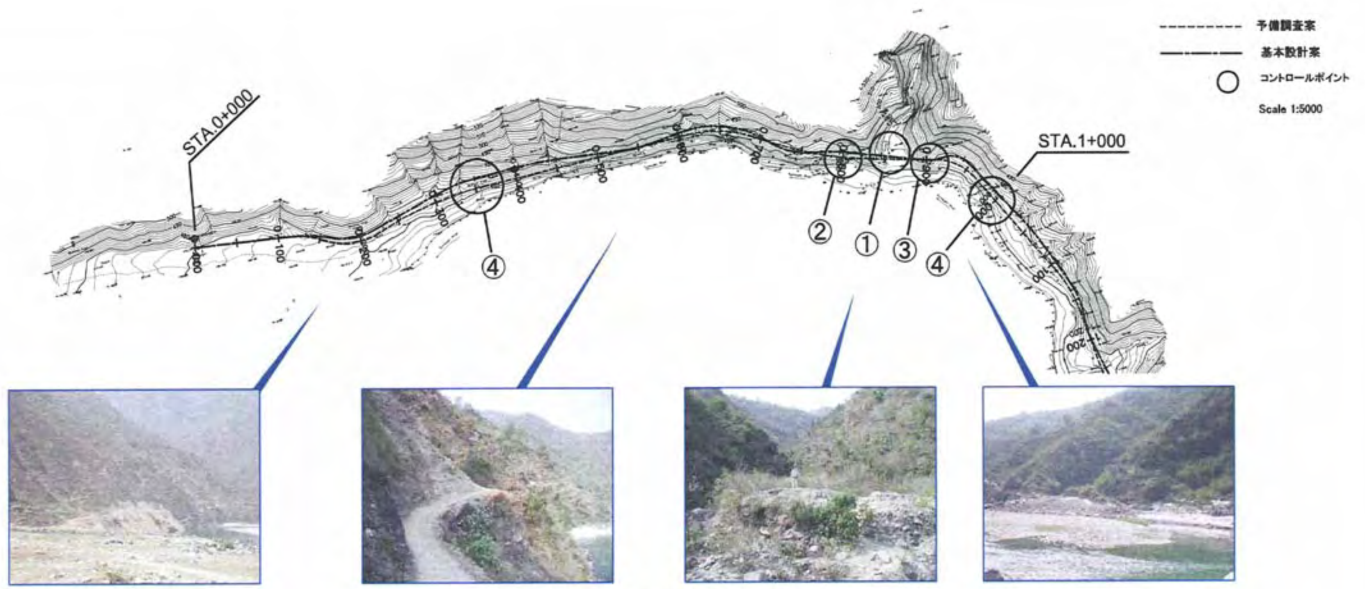
８－８　線形検討資料

８－８　線形検討資料



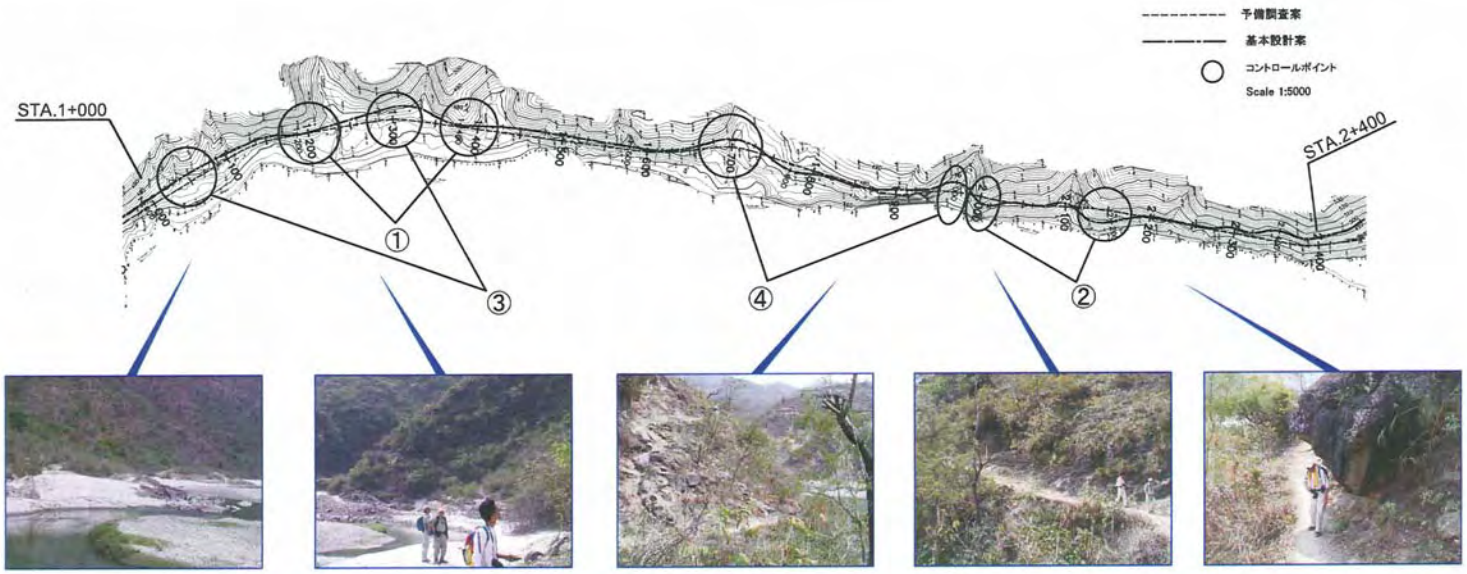
No.1（STA.0+000～STA.1+000）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート（予備調査案）		Bルート（基本設計案）	
内容	コントロールポイント				①Bhaluコーズウェイ渡河位置	
					②Sta.0+800の川側構造形状	
					③Sta.0+900の長大切土回避	
					④構造物基礎は洪水位以上	
	道路延長		1,000	m	1,000	m
	既存道（RTO）利用		極力利用　150	m	極力利用　200	m
	補償家屋		なし	-	なし	-
	補償耕作地		なし	-	なし	-
比較特性	社会環境への影響	家屋移転	なし	-	なし	-
		土地の損失	なし	-	なし	-
		騒音・振動	なし	-	なし	-
		交通安全	なし	-	なし	-
		周辺発展	なし	-	なし	-
		地域分断	なし	-	なし	-
		田畑分断	なし	-	なし	-
		灌漑排水	なし	-	なし	-
		利便性	なし	-	なし	-
	自然環境への影響軽減		Bルートとほぼ同じ	◎	最小の切土・盛土規模	◎
	経済性		Bルートよりやや高い	△	Aルートより安い	◎
	施工性		構造物がやや多い	△	土工バランスがよい	◎
	防災上の安全性		洪水に対しやや不安	△	洪水位以上、崩壊少ない	◎
	走行上の快適性		平面はほぼ直線的	◎	平面は緩やかな曲線	△
	将来の道路維持管理		小崩壊が予想される	△	崩壊の発生少ない	◎
	景観		Bルートとほぼ同じ	◎	自然に馴染んでいる	◎
総合評価			△		◎	
推奨案					採用	

凡例　比較案と対比して「◎：優れている」、「△：どちらかというとやや劣る」、「×：劣っている」

線形検討資料No.1

線形検討資料（1/19）

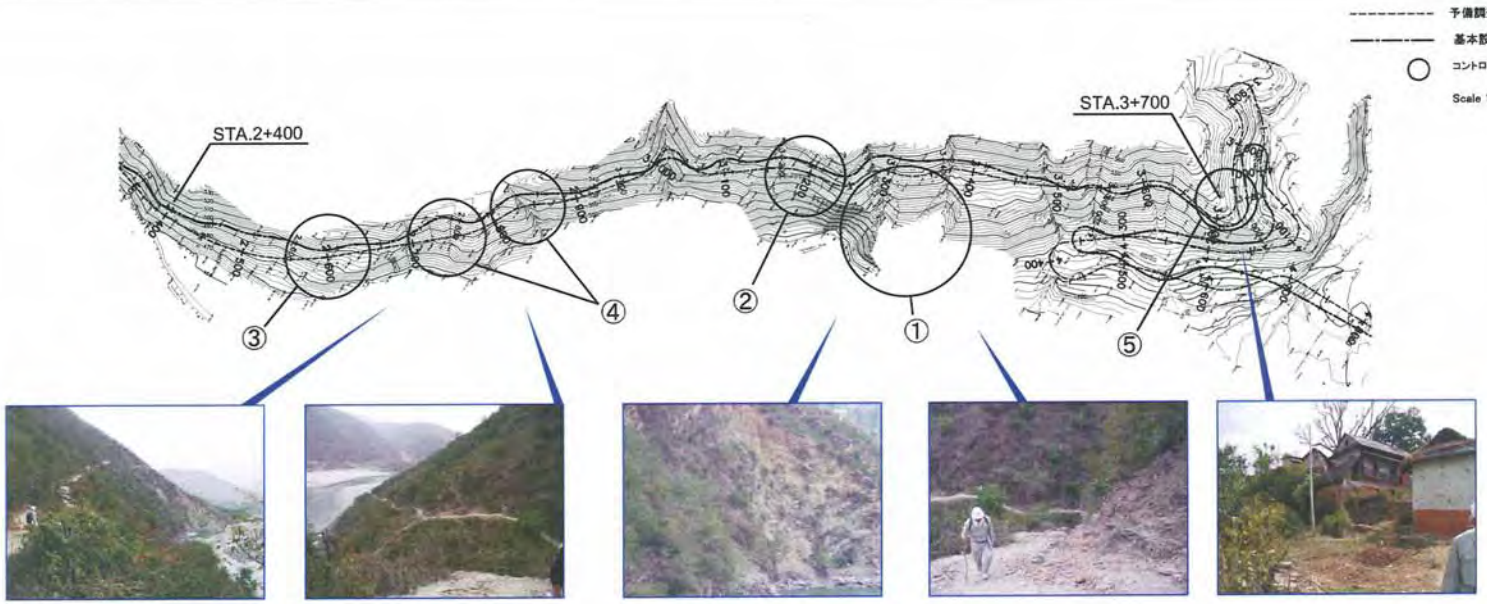


No.2（STA.1+000～STA.2+400）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート（予備調査案）		Bルート（基本設計案）	
内容	コントロールポイント				①Sta.1+200，+380の切土規模	
					②Sta.2+00，+150の切土規模	
					③Sta.1+050，+300の用側橋梁物形式	
					④Sta.1+700，+975の用側橋梁物形式	
	道路延長		1,400	m	1,400	m
	既存道（RTO）利用		Bルートとほぼ同じ	△	工事中に現形道を生かす	◎
	補償家屋		なし	－	なし	－
	補償耕作地		なし	－	なし	－
比較特性	社会環境への影響	家屋移転	なし	－	なし	－
		土地の損失	なし	－	なし	－
		騒音・振動	なし	－	なし	－
		交通安全	なし	－	なし	－
		周辺発展	なし	－	なし	－
		地域分断	なし	－	なし	－
		田畑分断	なし	－	なし	－
		農飲排水付替	なし	－	なし	－
		利便性	なし	－	なし	－
	自然環境への影響		影響面積が大きい	×	最小の切土・盛土規模	◎
	経済性		Bルートより高価	×	Aルートより安価	◎
	施工性		土工・構造物が多い	×	土工・構造物が少ない	◎
	防災上の安全性		切土・盛土法面が長い	×	切土・盛土法面が小さい	◎
	走行上の快適性		平面はほぼ直線的	◎	平面は曲線が多い	△
	将来の道路維持管理		小崩壊が頻発	×	崩壊の発生少ない	◎
	景観		大きな法面がある	△	自然に馴染んでいる	◎
総合評価			×		◎	
推奨案					採用	

凡例　比較案と対比して「◎：優れている」、「△：どちらかというとやや劣る」、「×：劣っている」

線形検討資料No.2

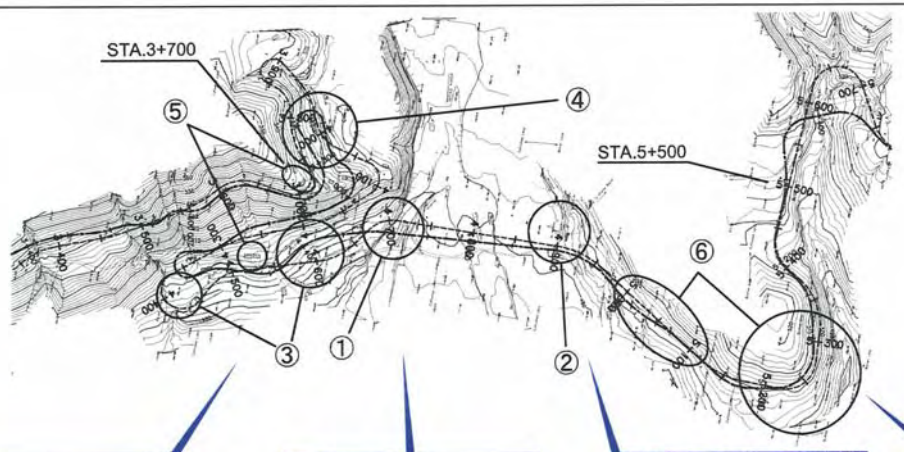


No.3（STA.2+400～STA.3+700）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート（予備調査案）		Bルート（基本設計案）	
内容	コントロールポイント				①Sta.3+300の崩壊区域を回避	
					②Sta.3+200の川側構造物形式	
					③Sta.2+600付近からの眺望	
					④全区間の切土・盛土規模縮小	
					⑤家屋を回避	
	道路延長		1,300	m	1,300	m
	既存道（RTO）利用		なし	m	なし	m
	補償家屋		なし	軒	なし	軒
	補償耕作地		なし	m2	なし	m2
比較特性	社会環境への影響	家屋移転	なし	－	なし	－
		土地の損失	なし	－	なし	－
		騒音・振動	なし	－	なし	－
		交通安全	なし	－	なし	－
		周辺見展	なし	－	なし	－
		地域分断	なし	－	なし	－
		田畑分断	なし	－	なし	－
		灌漑排水付替	なし	－	なし	－
		利便性	なし	－	なし	－
	自然環境への影響		影響面積が大きい	×	最小の切土・盛土規模	◎
	経済性		Bルートより高価	×	Aルートより安価	◎
	施工性		土工・構造物が多い	×	土工・構造物が少ない	◎
	防災上の安全性		崩壊地が近く危険	×	崩壊地から離れている	◎
	走行上の快適性		平面はほぼ直線的	◎	小さな曲線多い	△
	将来の道路維持管理		大崩壊の可能性あり	×	崩壊の発生少ない	◎
	景観		大きな法面がある	△	自然に馴染んでいる	◎
総合評価			×		◎	
推奨案					採用	

凡例　比較案と対比して「◎：優れている」、「△：どちらかというとやや劣る」、「×：劣っている」

線形検討資料No.3

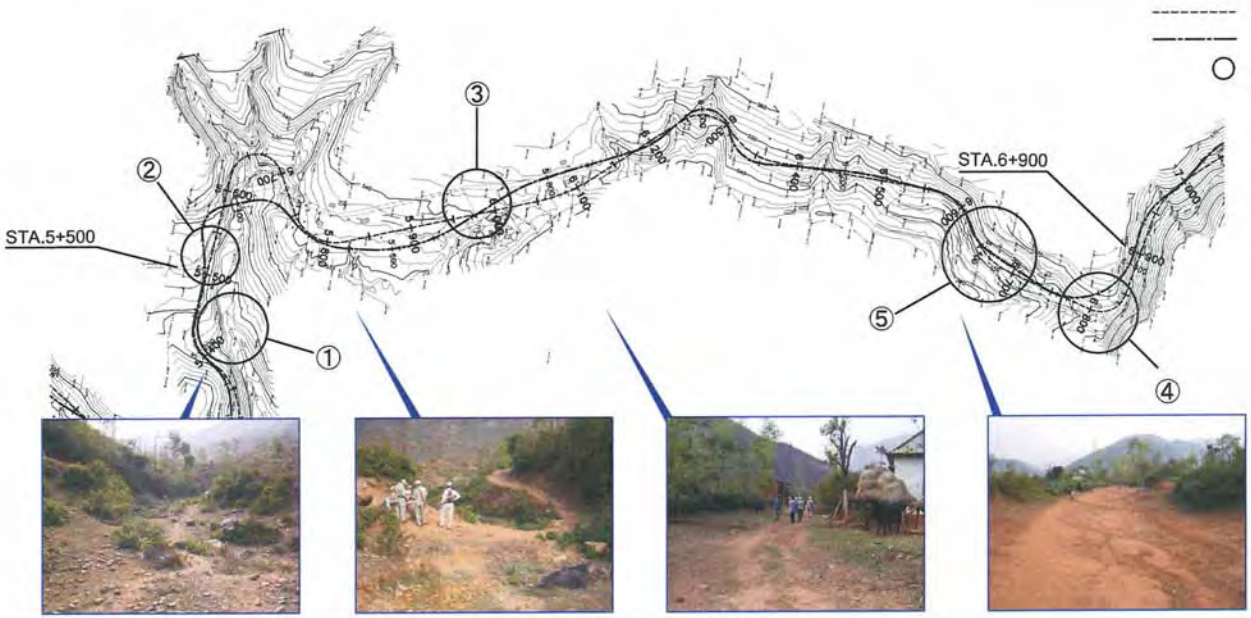


No.4（STA.3+700～STA.5+500）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート（予備調査案）		Bルート（基本設計案）	
内容	コントロールポイント				①Niguiコーズウェイの渡河位置	
					②Sta. 4+900付近の休憩場所	
					③Sta. 4+600の耕作地	
					④Sta. 4+000付近の地すべり安定	
					⑤家屋への影響	
					⑥切土・盛土規模の縮小	
	道路延長		1,800	m	1,800	m
	既存道（RTO）利用		なし	m	なし	m
	補償家屋		8	軒	6	軒
	補償耕作地		約9,900	m2	約6,000	m2
比較特性	社会環境への影響	家屋移転	多い	×	Aルートより少ない	◎
		土地の損失	多い	×	Aルートより少ない	◎
		騒音・振動	ややある	△	ややある	◎
		交通安全	少ない	△	少ない	◎
		周辺発展	なし	－	なし	－
		地域分断	なし	－	なし	－
		田畑分断	ある	×	少ない	◎
		灌漑排水付替	橋断のみ	△	橋断のみ	◎
		利便性	Bルートとほぼ同じ	△	良好	◎
	自然環境への影響		Bルートとややや大きい	△	最小の切土・盛土規模	◎
	経済性		Bルートとややや高価	△	Aルートより安価	◎
	施工性		土工・構造物がやや多い	△	土工・構造物が少ない	◎
	防災上の安全性		地すべりに悪影響がある	×	崩壊の可能性がない	◎
	走行上の快適性		Bルートとほぼ同じ	△	バランスの良い線形	◎
	将来の道路維持管理		Bルートとほぼ同じ	△	崩壊の発生少ない	◎
	景観		Bルートとほぼ同じ	△	自然に馴染んでいる	◎
総合評価			×		◎	
推奨案					採用	

凡例　比較案と対比して「◎：優れている」、「△：どちらかというとやや劣る」、「×：劣っている」

線形検討資料No.4

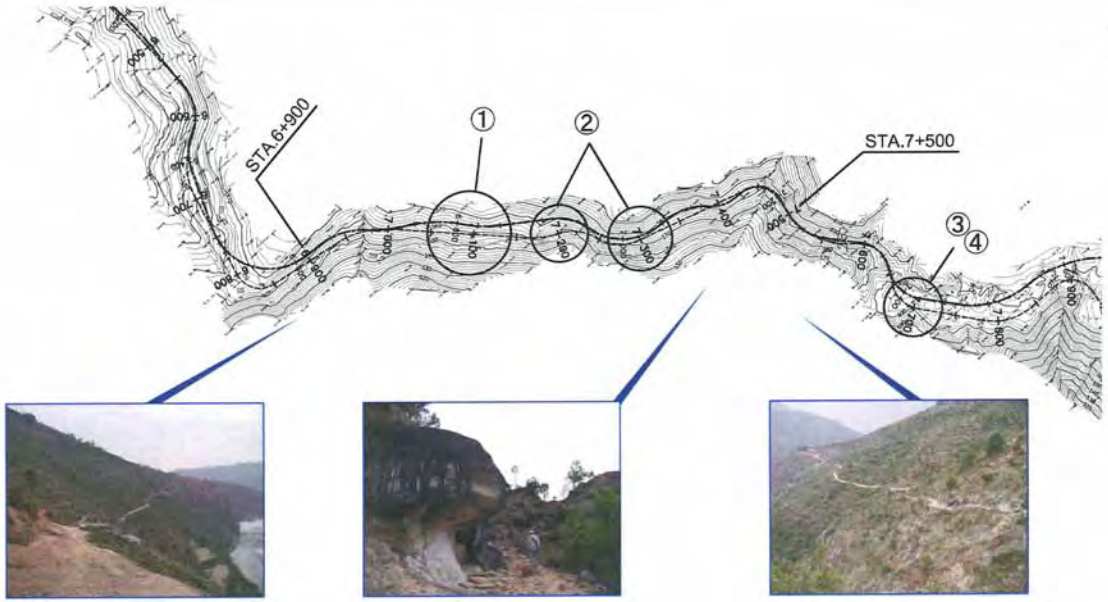


No.5（STA.5+500～STA.6+900）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート(予備調査案)		Bルート(基本設計案)	
内容	コントロールポイント				①Gadaulelコーズウェイの新河位置	
					②Sta.5+550付近の新作地	
					③Sta.6+000付近の現道の利用	
					④Sta.6+800の休憩場所	
					⑤Sta.6+700付近の現道の利用	
	道路延長		1,400	m	1,400	m
	既存道(RTO)利用		60%程度利用	△	80%程度利用	◎
	補償家屋		5	軒	6	軒
	補償耕作地		約5,500	m2	約3,000	m2
比較特性	社会環境への影響	家屋移転	貴重な休憩所	×	必要な家屋は譲渡している	◎
		土地の消失	Bルートよりやや多い	△	少ない	◎
		騒音・振動	あり	◎	Aルートとほぼ同じ	△
		交通安全	あり	◎	Aルートとほぼ同じ	△
		周辺発展	Bルートとほぼ同じ	△	発展性望める	◎
		地域分断	なし		なし	
		田畑分断	なし		なし	
		農業排水付替	橋脚のみ	△	橋脚のみ	◎
		利便性	Bルートとほぼ同じ	△	良好	
	自然環境への影響		Bルートとほぼ同じ	△	最小の切土・盛土規模	◎
	経済性		Bルートとほぼ同じ	△	Aルートよりやや安価	◎
	施工性		Bルートとほぼ同じ	△	土工・構造物が少ない	◎
	防災上の安全性		Bルートとほぼ同じ	△	平坦部で危険性なし	◎
	走行上の快適性		平面はほぼ直線的	◎	バランスの良い線形	△
	将来の道路維持管理		Bルートとほぼ同じ	△	崩壊の発生少ない	◎
	景観		Bルートとほぼ同じ	△	自然に馴染んでいる	◎
総合評価			△		◎	
推奨案					採用	

凡例 比較案と対比して「◎：優れている」，「△：どちらかというとやや劣る」，「×：劣っている」

線形検討資料No.5



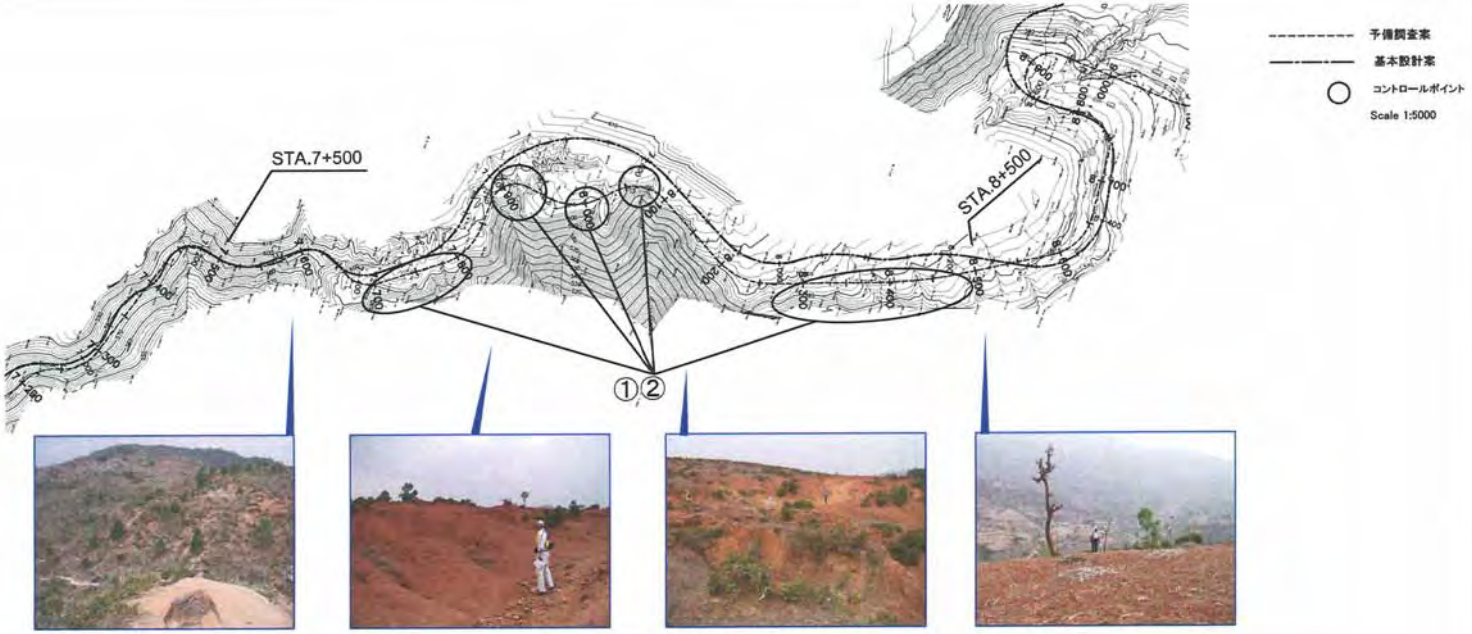
No.6（STA.6+900～STA.7+500）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート（予備調査案）		Bルート（基本設計案）	
内容	コントロールポイント				①Sta.7+100付近の崩落部への影響	
					②切土・盛土規模縮小	
					③Sta.7+700への縦断勾配を考慮	
					④Sta.7+700からの景観に配慮	
	道路延長		600	m	600	m
	既存道（RTO）利用		工事中に現歩道の使用不可	×	工事中に現歩道を生かす	◎
	補償家屋		なし	軒	なし	軒
	補償耕作地		なし	m2	なし	m2
比較特性	社会環境への影響	家屋移転	なし		なし	
		土地の損失	低木山地のみ	△	低木山地のみ	◎
		騒音・振動	なし		なし	
		交通安全	なし		なし	
		開発波及	なし		なし	
		地域分断	なし		なし	
		田畑分断	なし		なし	
		灌漑排水付替	なし		なし	
		利便性	なし		なし	
	自然環境への影響		浸食部への影響が大きい	×	最小の切土・盛土規模	◎
	経済性		Bルート上り高価	△	最小規模	◎
	施工性		土工・構造物が多い	△	土工・構造物が少ない	◎
	防災上の安全性		浸食部の並行で危険	×	浸食部を避けている	◎
	走行上の快適性		Bルート上り曲線が多い	△	バランスの良い線形	◎
	将来の道路維持管理		浸食により負担が大きい	×	崩壊の発生少ない	◎
	景観		Bルート上りやや悪なう	△	自然に馴染んでいる	◎
総合評価			×		◎	
推奨案					採用	

凡例　比較案と対比して「◎：優れている」、「△：どちらかというとやや劣る」、「×：劣っている」

線形検討資料No.6

線形検討資料（6/19）

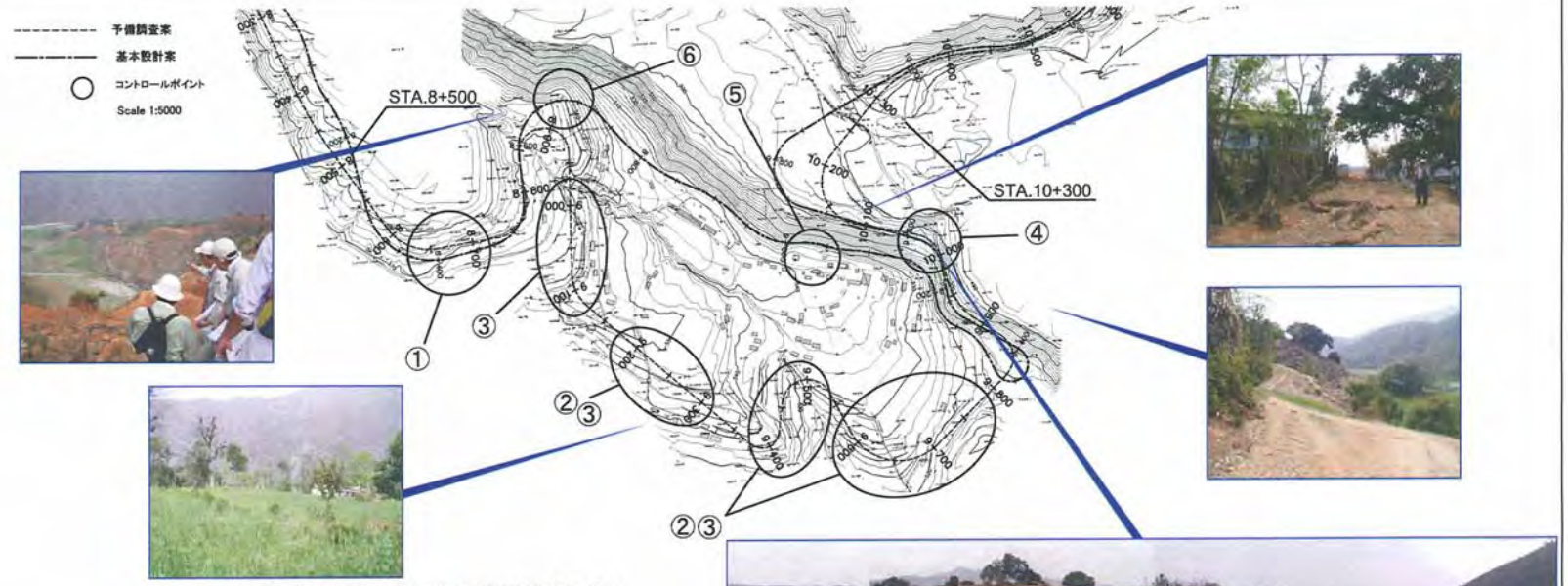


No.7（STA.7+500～STA.8+500）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート（予備調査案）		Bルート（基本設計案）	
内容	コントロールポイント				①既存侵食箇所を回避 ②路面排水の流末処理 （侵食部の沢には流さない）	
内容	道路延長		1,000	m	1,000	m
内容	既存道（RTO）利用		工事中の現形道の使用不可	×	工事中に現形道の使用可	◎
内容	補償家屋		なし	軒	なし	軒
内容	補償耕作地		なし	m2	なし	m2
比較特性	社会環境への影響	家屋移転	なし		なし	
比較特性	社会環境への影響	土地の損失	赤土のみ		赤土のみ	
比較特性	社会環境への影響	騒音・振動	なし		少ない	
比較特性	社会環境への影響	交通安全	なし		少ない	
比較特性	社会環境への影響	隣接家屋	なし		なし	
比較特性	社会環境への影響	地域分断	なし		なし	
比較特性	社会環境への影響	田畑分断	なし		なし	
比較特性	社会環境への影響	盛土排水対策	なし		なし	
比較特性	社会環境への影響	利便性	なし		なし	
比較特性	自然環境への影響		侵食が拡大する	×	最小の切土・盛土規模	◎
比較特性	経済性		Bルート より高価	×	Aルート より安価	◎
比較特性	施工性		土工・構造物が多い	×	土工・構造物が少ない	◎
比較特性	防災上の安全性		侵食が拡大する	×	侵食部を回避	◎
比較特性	走行上の快適性		曲線がやや多い	△	バランスの良い線形	◎
比較特性	将来の道路維持管理		侵食が拡大し負担が多い	×	侵食部を避けて負担がない	◎
比較特性	景観		大きな盛土法面が出る	△	自然地形に馴染んでいる	◎
総合評価			×		◎	
推奨案					採用	

凡例　比較案と対比して「◎：優れている」、「△：どちらかというとやや劣る」、「×：劣っている」

線形検討資料No.7

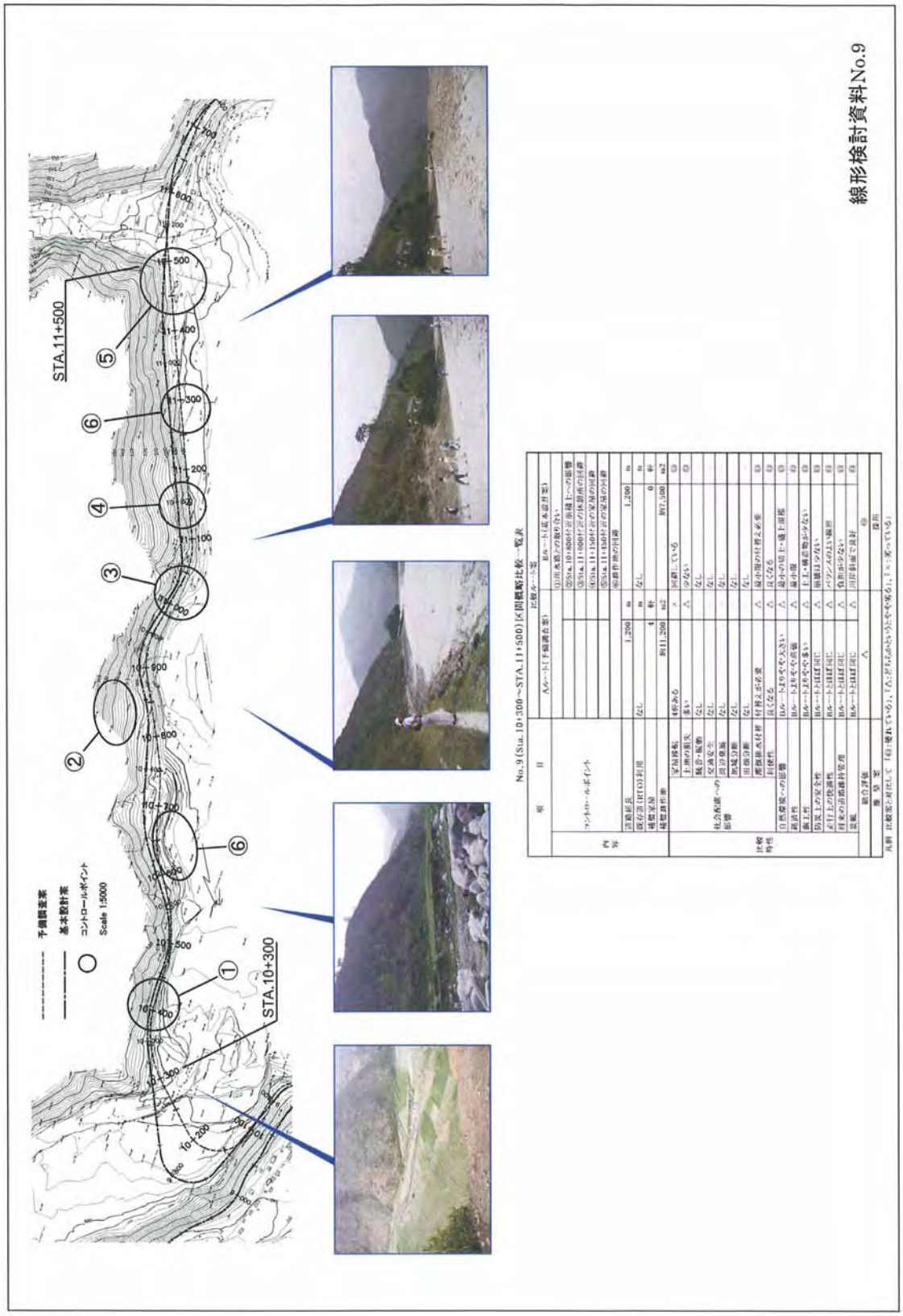


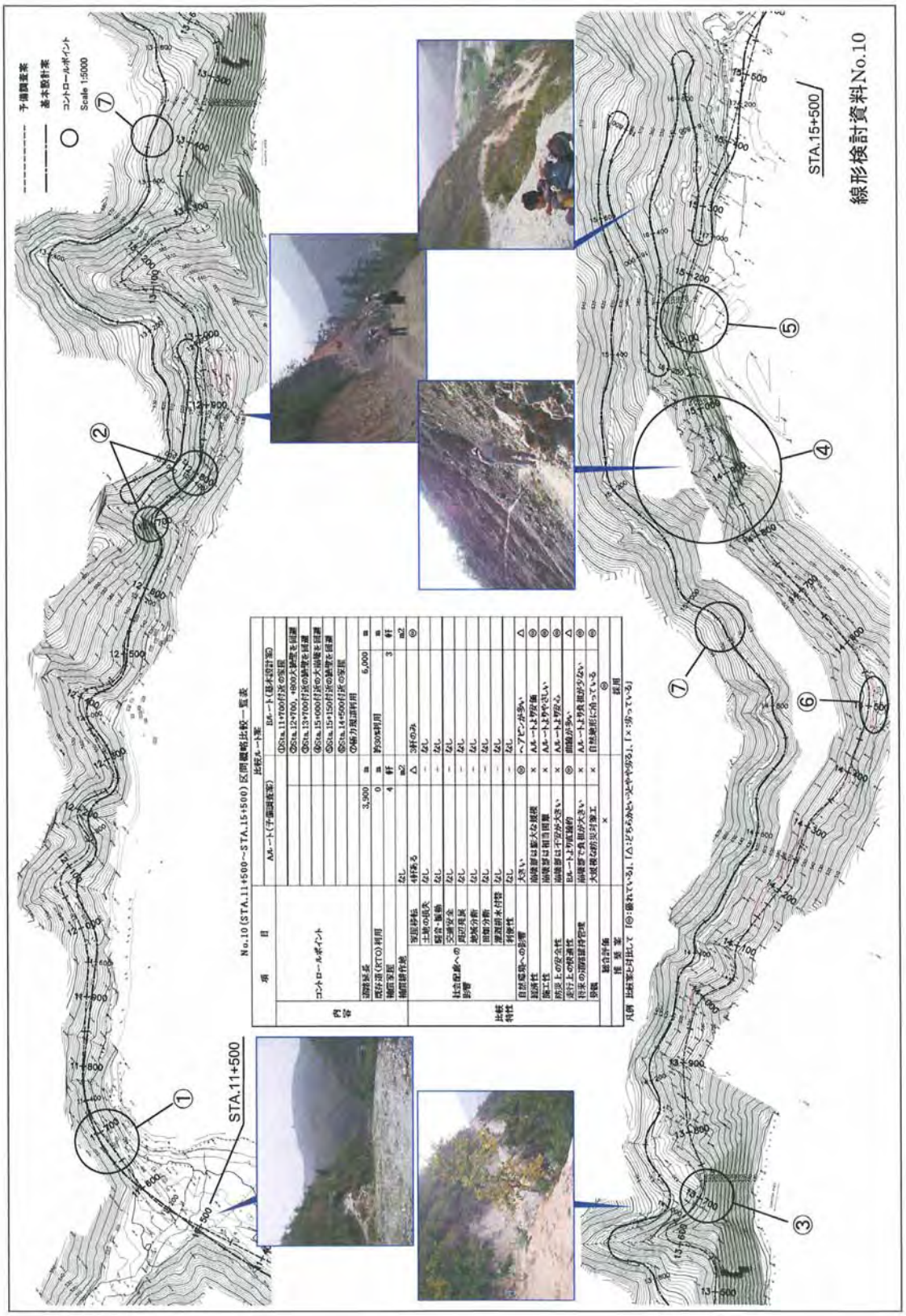
No.8（STA.8+500～STA.10+300）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート（予備調査案）		Bルート（基本設計案）	
内容	コントロールポイント				①Sta.8+700の耕作地	
					②部落内の有用耕作地を回避	
					③大規模灌漑配水地区を回避	
					④吾提樹等大木を回避	
					⑤体育施設を回避	
					⑥大規模灌漑水路との交差	
	道路延長		1,800	m	1,400	m
	既存道（RTO）利用		なし	×	20%程度	◎
	補償家屋		2	軒	0	軒
	補償耕作地		約28,500	m2	約4,500	m2
比較特性	社会環境への影響	家屋移転	2軒ある	△	全部回避している	◎
		土地の損失	相当大きい	×	少ない	◎
		騒音・振動	ある	×	少ない	◎
		交通安全	事故危険性あり	△	少ない	◎
		周辺景観	阻害する	×	寄与する	◎
		地域分断	阻害する	×	なし	◎
		田畑分断	阻害する	×	なし	◎
		灌漑排水付替	必要箇所が多い	×	横断管のみ	◎
		利便性	良くなる	◎	Aルートよりやや不便	△
	自然環境への影響		影響面積が大きい	×	最小の切土・盛土規模	◎
	経済性		Bルートより高価	△	Aルートより安価	◎
	施工性		人家連担内で慎重を期す	△	施工延長が短い	◎
	防災上の安全性		軟弱地盤上に盛土	△	問題はない	◎
	走行上の快適性		延長が400m長い	△	ヘアピンがあるが短い	◎
	将来の道路維持管理		部落内で手間がかかる	△	負担が少ない	◎
	景観		北側斜面でよくない	△	西側斜面で良好	◎
総合評価			×		◎	
推奨案					採用	

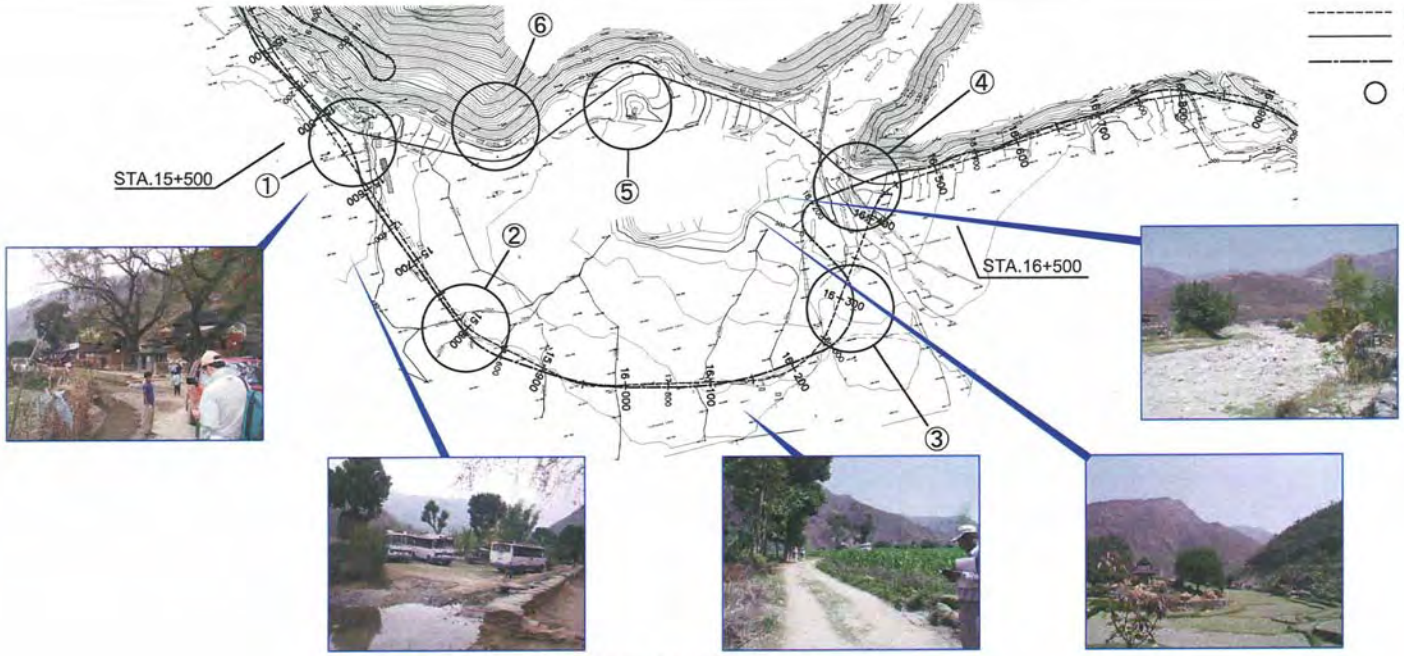
凡例　比較案と対比して「◎：優れている」、「△：どちらかというとやや劣る」、「×：劣っている」

線形検討資料No.8


線形検討資料No.9
No.9(Sta.10+300～STA.11+500)区間概略比較一覧表
STA.10+300
STA.11+500
予備設定案
基本設計案
コントロールポイント
Scale 1:5000


線形検討資料No.10
STA.11+500
STA.15+500
予備調査案
基本設計案
コントロールポイント
Scale 1:5000
No.10（STA.11+500～STA.15+500）区間概略比較一覧表
項目
内容
比較特性
比較ルート案
AA-ルート（予備調査案）
BA-ルート（基本設計案）
凡例 比較案と対比して（◎:優れている，△:どちらかといえばやや劣る，（×:劣っている）

線形検討資料（10/19）



No.11（STA.15+500～STA.16+500）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案					
			Aルート（予備調査案）		Bルート（予備調査案）		Cルート（基本設計案）	
内容	コントロールポイント		◎集落の回避		・地盤分断不回避		◎Sta.15+500付近の商店の利便	
			◎有用耕作地の回避		（アプローケアルートは山裾）		◎Sta.15+800付近の大木を回避	
							◎Sta.16+300付近に護岸を考慮	
							◎Ilhote川コーズウェイの取り合い	
							◎集落の回避	
							◎有用耕作地の回避	
	道路延長		1,000	m	800	m	1,000	m
	既存道（KTO）利用		600	m	0	m	600	m
	補償家屋		4	軒	3	軒	0	軒
	補償耕作地		約24,000（KTO用地含む）	m2	約15,000	m2	約24,000（KTO用地含む）	m2
比較特性	社会配慮への影響	家屋移転	4軒あり	△	3軒あり	△	全部回避している	◎
		土地の損失	多い	△	有用耕作地が多い	×	有用耕作地は少ない	◎
		騒音・振動	少ない	△	大きい	×	少ない	◎
		交通安全	良好	△	危険が発生する	×	良好	◎
		周辺交通	望める	△	望みが少ない	×	望める（道の駅）	◎
		地盤分断	ある	△	ない	◎	ある	△
		河川分断	ある	△	ない	◎	盛土で対処	△
		雨水排水対策	横断管のみ	△	横断管のみ	△	横断管のみ	◎
		河床性	Bルートよりやや悪い	△	よい	◎	Bルートよりやや悪い	△
	自然環境への影響		ほとんどない	△	ほとんどない	△	ほとんどない	◎
	経済性		Cルートとほぼ同等	△	安い	◎	護岸工の設置がある	△
	施工性		Cルートとほぼ同等	△	人家連続で対策が必要	△	やさしい	◎
	防災上の安全性		Cルートとほぼ同等	△	供水に配慮するめ管がある	×	護岸工設置で補強	◎
	走行上の快適性		Cルートとほぼ同等	△	延長が短い	◎	平坦で見通し良好	△
	将来の道路維持管理		Cルートとほぼ同等	△	人家が近いので負担がある	×	負担が少ない	◎
	景観		Cルートとほぼ同等	△	Cルートとほぼ同等	△	平坦で見通し良好	◎
総合評価			△		×		◎	
推奨案							採用	

凡例　比較案と対比して「◎：優れている」、「△：どちらかというとやや劣る」、「×：劣っている」

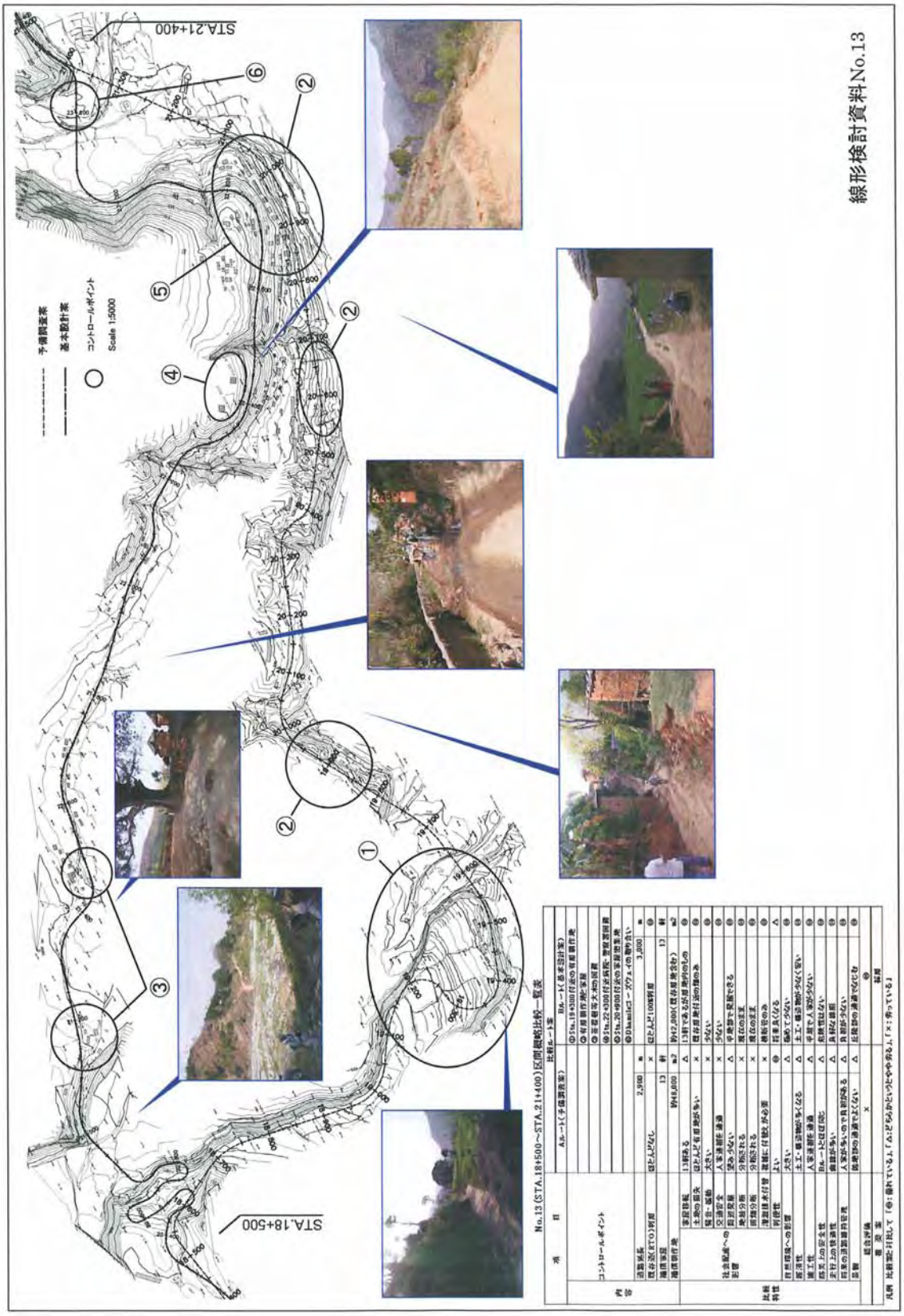
線形検討資料No.11

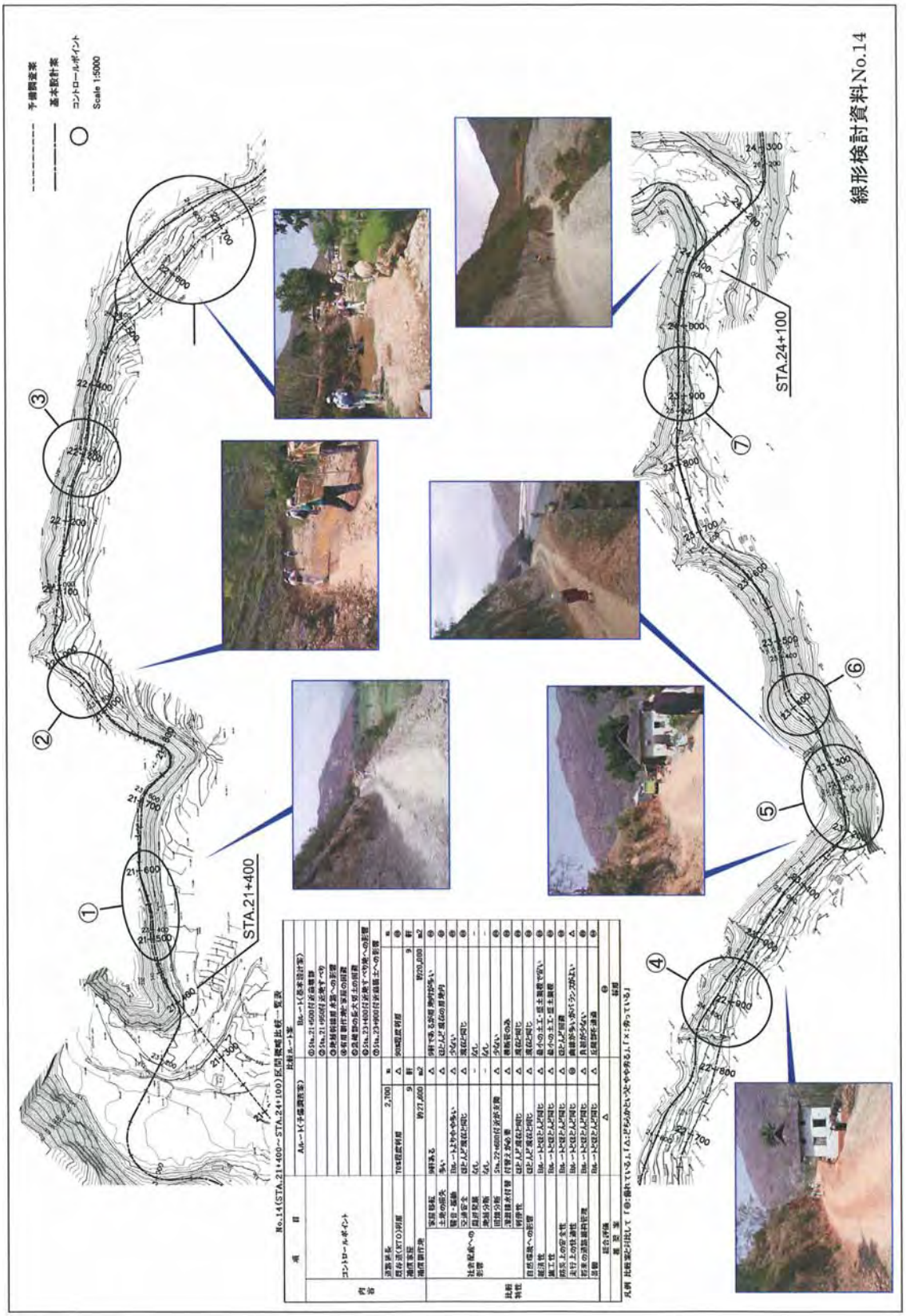
No.12（STA.16+500～STA.18+500）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート（予備調査案）		Bルート（基本設計案）	
内容	コントロールポイント				①Sta. 16+600付近の崩落部	
					②Sta. 17+000付近の転石群	
					③現道を極力利用する	
					④Sta. 17+700付近の人家	
					⑤Sta. 18+400付近の体育施設回避	
	道路延長		2,000	m	2,000	m
	既存道（RTO）利用		10%程度	△	100%利用	◎
	補償家屋		4	軒	3	軒
	補償耕作地		約12,000	m2	約8,000	m2
比較特性	社会配慮への影響	家屋移転	4軒ある	△	3軒ある	◎
		土地の損失	多い	△	少ない	◎
		騒音・振動	ある	△	速度を減速させる	◎
		交通安全	対策必要	△	歩行者が多いので対策する	◎
		周辺見晴	少ない	△	パーキングエリアで望める	◎
		地域分断	なし	-	なし	-
		田畑分断	なし	-	なし	-
		灌漑排水付替	付替え必要	△	付替え必要	◎
		利便性	よい	△	現道と同じ	◎
	自然環境への影響		ほとんどない	△	ほとんどない	◎
	経済性		Bルートよりやや高価	△	Aルートより安い	◎
	施工性		既存道路よりやや離れる	△	既存道路を利用する	◎
	防災上の安全性		崩壊少ない	△	崩壊は少ない	◎
	走行上の快適性		Bルートとほぼ同等	△	地形なりに定速走行	◎
	将来の道路維持管理		Bルートとほぼ同等	△	負担が少ない	◎
	景観		Bルートとほぼ同等	△	切土・盛土少ない	◎
総合評価			△		◎	
推奨案					採用	

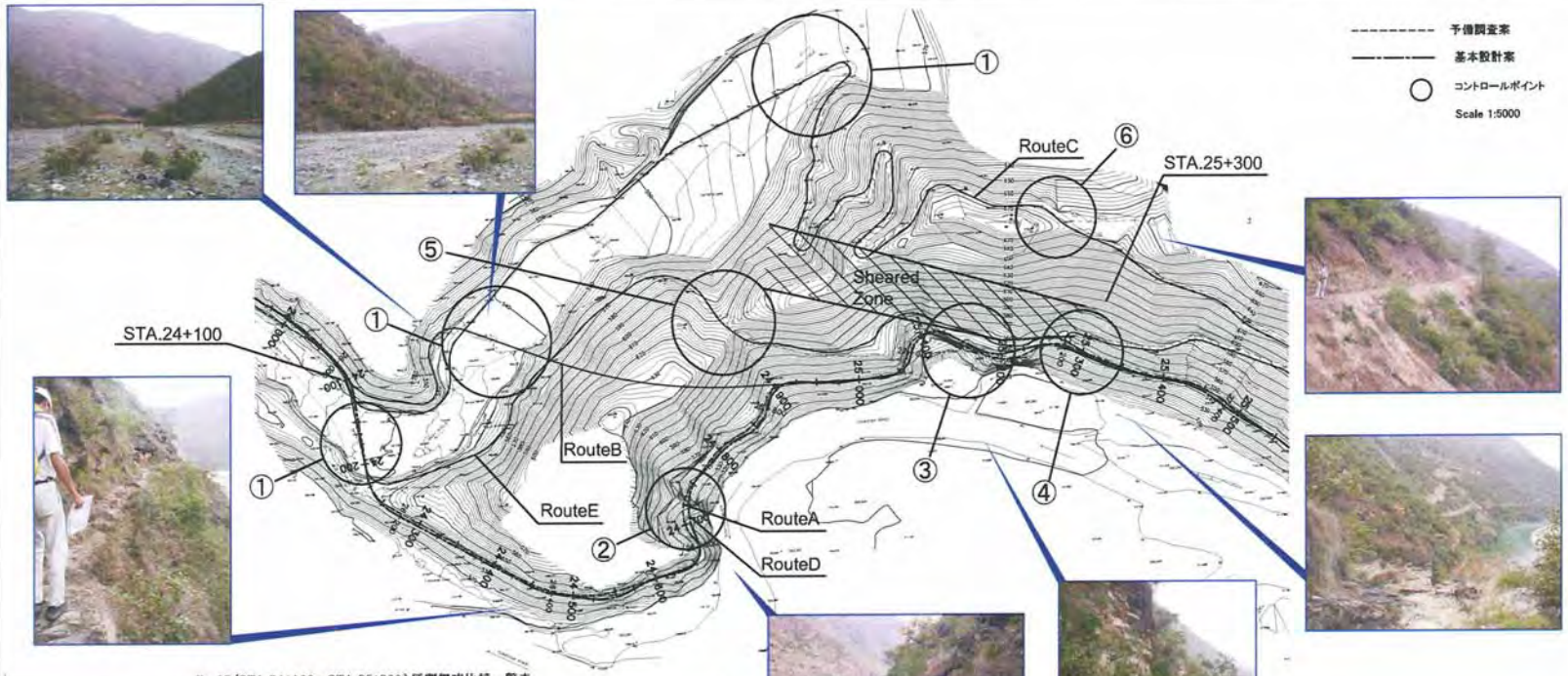
凡例　比較案と対比して「◎：優れている」、「△：どちらかといっとやや劣る」、「×：劣っている」

線形検討資料No.12


線形検討資料No.13
STA.18+500
STA.21+400
予備調査案
基本設計案
コントロールポイント
Scale 1:5000
No.13(STA.18+500～STA.21+400)区間線形比較一覧表


線形検討資料No.14
予備調査案
基本設計案
コントロールポイント
Scale 1:5000
STA.21+400
STA.24+100
No.14(STA.21+400～STA.24+100)区間線形比較一覧表

線形検討資料（14/19）

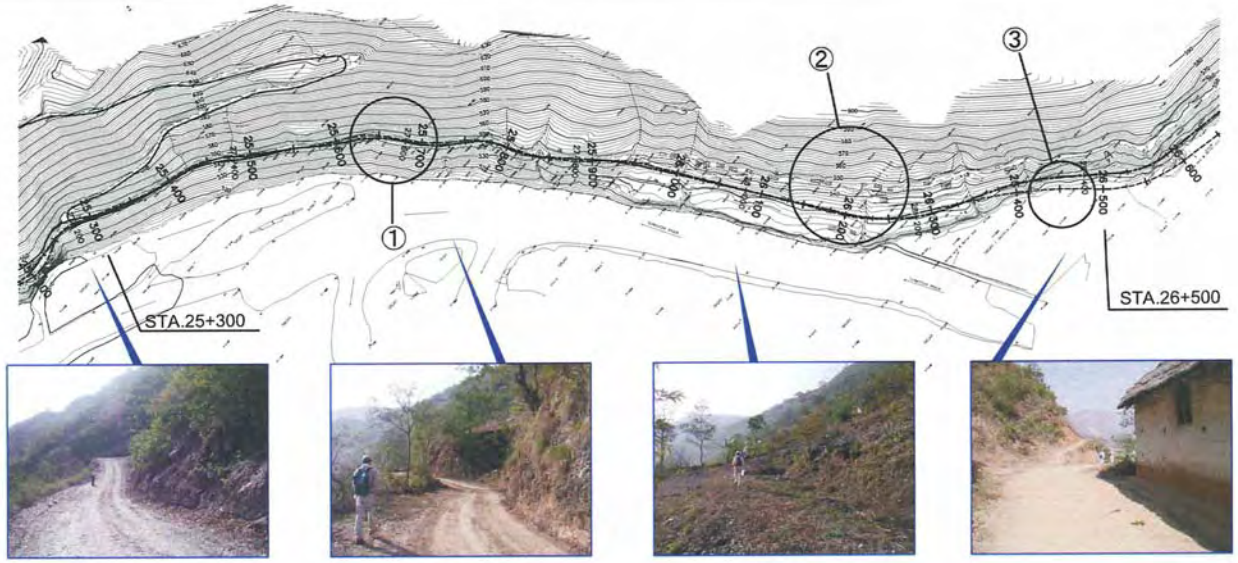


No.15（STA.24+100～STA.25+300）区間概略比較一覧表

項目		比較ルート案									
		予備調査案						基本設計案			
		Aルート		Bルート		Cルート		Dルート		Eルート	
内容	コントロールポイント	②法面の岩石崩壊		①渡河位置		①渡河位置		①渡河位置		①尾根部の崩壊	
		③法面の回避		（トンネル）		③既設道路の利用		②法面の岩石崩壊		（脆い地質の崩壊）	
		④既設道路との接続		（脆い地質の崩壊）				③法面の回避		③法面の崩壊	
				④既設道路との接続				④既設道路との接続		④既設道路との接続	
	道路延長	1,200	m	1,000	m	2,000	m	1,200	m	1,000	m
	既存道（RTO）利用	0%	×	0%	×	80%程度利用	◎	0%	×	0%	×
	施工面積	なし	有	なし	有	なし	有	なし	有	なし	有
	補償調査発	なし	m2	なし	m2	なし	m2	なし	m2	なし	m2
比較特性	社会配慮への影響 家屋移転	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－
	土地の損失	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－
	質量・振動	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－
	交通安全	Dと同じ同じ	△	短く・狭く危険	△	小曲線多く危険	×	曲線多い	△	最も安全	◎
	景観悪化	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－
	地域分断	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－
	田畑分断	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－
	河川排水阻害	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－
	例歴性	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－	なし	－
	自然環境への影響	やや大きい	△	最も小さい	◎	大きい	×	切土盛土小	○	最も長大切土	×
	経済性	高価	△	最も高価	×	やや安価	○	最も安価	◎	高価	△
	施工性	困難	△	最も困難	×	やや容易	○	最も容易	◎	崩例が困難	×
	防災上の安全性	やや安定	△	施工中危険	×	もろい地質	×	最も安定	◎	長大切土不安	×
	走行上の快適性	曲線多い	△	明いが滑らか	○	最も不快	×	曲線多い	△	最も滑らか	◎
	将来の道路維持管理	落石で負担大	△	補修が困難	×	崩壊で負担大	×	最小の切土	◎	補修が困難	×
	景観	切土やや大	△	影響範囲少	◎	影響範囲最大	×	最小の切土	○	影響範囲大	△
総合評価		△		×		×		◎		×	
推奨案								採用			

凡例　比較案と対比して「◎：最も優れている」、「○：優れている」、「△：どちらかというとやや劣る」、「×：劣っている」

線形検討資料No.15

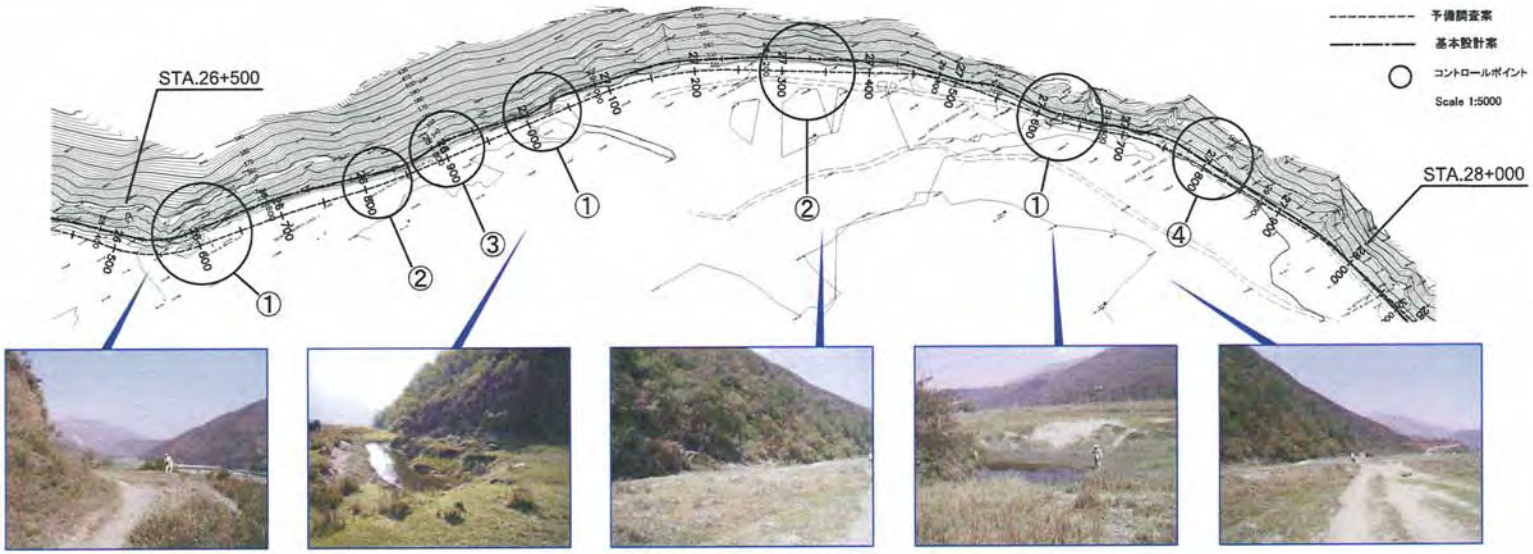


No.16(STA.25+300～STA.26+500)区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート(予備調査案)		Bルート(基本設計案)	
内容	コントロールポイント				①現道利用	
					②集落家屋の回避	
					③Sta.26+450付近の盛土規模	
	道路延長		1,200	m	1,200	m
	既存道(RTO)利用		50%利用	△	50%利用	△
	補償家屋		1軒	軒	1軒	軒
	補償耕作地		約12,000	m2	約12,000	m2
比較特性	社会配慮への影響	家屋移転	1軒あり	△	1軒あり	△
		土地の損失	止むを得ない	△	止むを得ない	△
		騒音・振動	少ない	◎	少ない	◎
		交通安全	少ない	◎	少ない	◎
		周辺発展	なし	-	なし	-
		地域分断	なし		なし	
		田畑分断	ある	△	ある	△
		濃飛排水付替	なし	-	なし	-
		利便性	良好	◎	良好	◎
	自然環境への影響		現在と同じ	△	現在と同じ	◎
	経済性		Bルートよりやや高価	△	最小の切土・盛土で安価	◎
	施工性		Bルートよりやや規模が大きい	△	最小の切土・盛土規模	◎
	防災上の安全性		Sta.26+450盛土に洪水の影響あり	△	洪水の影響はない	◎
	走行上の快適性		Bルートとほぼ同じ	△	ほぼ直線	◎
	将来の道路維持管理		Bルートとほぼ同じ	△	負担が少ない	◎
	景観		Bルートとほぼ同じ	△	川岸沿いで良好	◎
総合評価			△		◎	
推奨案					採用	

凡例 比較案と対比して「◎:優れている」、「△:どちらかというとやや劣る」、「×:劣っている」

線形検討資料No.16

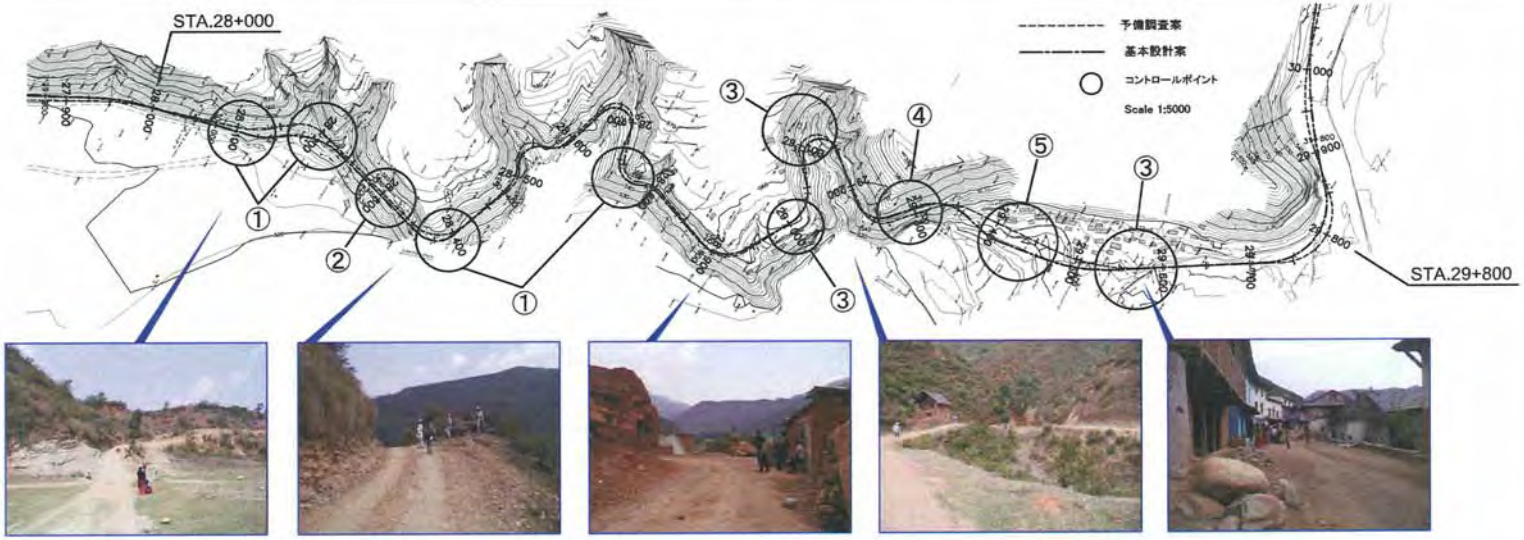


No.17（STA.26+500～STA.28+000）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート（予備調査案）		Bルート（基本設計案）	
内容	コントロールポイント				①水衝部の大洗掘を回避	
					②河床敷き（細砂）上の盛土を回避	
					③HWL以上の川側擁壁基礎	
					④Sta.27+800付近地すべりへの影響	
	道路延長		1,500	m	1,500	m
	既存道（RTO）利用		100%利用	◎	0%	×
	補償家屋		なし	軒	なし	軒
	補償耕作地		なし	m2	なし	m2
比較特性	社会配慮への影響	家屋移転	なし	－	なし	－
		土地の損失	なし	－	なし	－
		騒音・振動	なし	－	なし	－
		交通安全	なし	－	なし	－
		周辺発展	なし	－	なし	－
		地域分断	なし	－	なし	－
		田畑分断	なし	－	なし	－
		灌漑排水付替	なし	－	なし	－
		利便性	なし	－	なし	－
	自然環境への影響		河川内で少ない	◎	山側切土が発生する	△
	経済性		洗掘対策に膨大な費用	×	Aルートより安価	◎
	施工性		洗掘対策工の規模が大きい	×	Aルートより容易	◎
	防災上の安全性		道路流失の可能性あある	×	山側岩盤は良好、崩壊少ない	◎
	走行上の快適性		Bルートとほぼ同じ	△	良好	◎
	将来の道路維持管理		洪水の影響で負担が大きい	×	負担が少ない	◎
	景観		Bルート より悪い	△	地形に馴染み良好	◎
総合評価			×		◎	
推奨案					採用	

凡例　比較案と対比して「◎：優れている」、「△：どちらかというとやや劣る」、「×：劣っている」

線形検討資料No.17

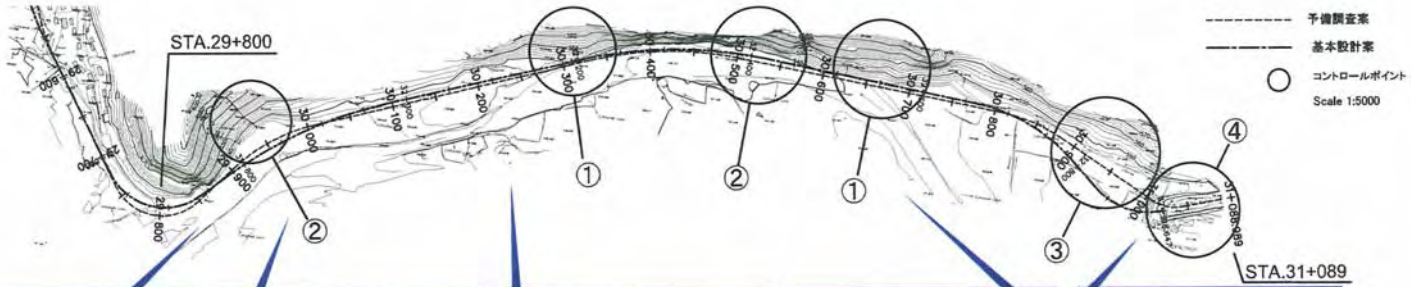


No.18（STA.28+000～STA.29+800）区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート（予備調査案）		Bルート（基本設計案）	
内容	コントロールポイント				①山側凸部の長大切土の回避	
					②現道を極力利用	
					③家屋の回避	
					④水衝部絶壁長大切土全回避	
					⑤高盛土による家屋の回避	
	道路延長		1,800	m	1,800	m
	既存道（RTO）利用		1,300	m	1,300	m
	補償家屋		7	軒	1	軒
	補償耕作地		約12,000	m2	約12,000	m2
比較特性	社会配慮への影響	家屋移転	7軒で多い	×	1軒で少ない	◎
		土地の損失	住む会得ない	△	宅地は少ない	◎
		騒音・振動	ややあり	△	ややあり	△
		交通安全	少ない	△	対策を講じる	◎
		周辺発展	可能性あり	△	望める	◎
		地域分断	なし	△	なし	◎
		田畑分断	なし	◎	少しある	△
		雨水排水付替	横断管のみ	△	横断管のみ	◎
		利便性	Bルートとほぼ同じ	△	低盛土で良好	◎
	自然環境への影響		長大切土が多い	△	最小の切土・盛土	◎
	経済性		Bルートより切土大で高価	△	最小の切土・盛土で安価	◎
	施工性		Bルートより土工・構造物多い	△	最小の切土・盛土規模	◎
	防災上の安全性		崩壊に不安がある	△	長大切土少ない	◎
	走行上の快適性		Bルートとほぼ同じ	△	走行速度にあった線形	◎
	将来の道路維持管理		Bルートとほぼ同じ	△	負担が少ない	◎
	景観		Bルートとほぼ同じ	△	滑らかで地形に馴染む	◎
総合評価			△		◎	
推奨案					採用	

凡例　比較案と対比して「◎：優れている」、「△：どちらかというとやや劣る」、「×：劣っている」

線形検討資料No.18



No.19 (STA.29+800～STA.31+100) 区間概略比較一覧表

項目			比較ルート案			
			Aルート(予備調査案)		Bルート(基本設計案)	
内容	コントロールポイント				①山側地質脆く切土を回避	
					②崩壊部前を盛土し安定を図る	
					③土捨場を考慮	
					④第四工区との接続	
	道路延長		1,200	m	1,200	m
	既存道(RTO)利用		なし	m	なし	m
	補償家屋		なし	軒	なし	軒
	補償耕作地		約12,000	m2	約12,000	m2
比較特性	社会配慮への影響	家屋移転	仮設小屋のみ		仮設小屋のみ	
		土地の損失	止むを得ない	△	止むを得ない最小の範囲	△
		騒音・振動	なし		なし	
		交通安全	なし		なし	
		周辺発展	なし		なし	
		地域分断	なし		なし	
		田畑分断	なし		なし	
		灌漑排水付替	用水必要	△	用水必要	△
		利便性	良好	△	かなり良好	◎
	自然環境への影響		Bルートとほぼ同じ	△	崩壊拡大を防止する	◎
	経済性		Bルートとほぼ同じ	△	最小の河川護岸構造で安価	◎
	施工性		Bルートとほぼ同じ	△	最小の河川護岸構造規模	◎
	防災上の安全性		Bルートとほぼ同じ	△	洪水、洗掘に対して対策する	◎
	走行上の快適性		Bルートとほぼ同じ	△	ほぼ直線	◎
	将来の道路維持管理		Bルートとほぼ同じ	△	負担が少ない	◎
	景観		Bルートとほぼ同じ	△	地形に馴染み良好	◎
総合評価			△		◎	
推奨案					採用	

凡例 比較案と対比して「◎:優れている」、「△:どちらかというとやや劣る」、「×:劣っている」

線形検討資料No.19